

## 平成29年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成30年3月30日

報告者	学科名	看護学科	職名	助教	氏名	犬飼 智子
研究課題	脳卒中急性期患者の家族によるハイリスク治療の代理意思決定への支援					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	犬飼 智子	保健福祉学部看護学科・助教	成人看護学	研究総括・データ収集・分析	
	分担者	鈴木 志津枝	神戸市看護大学	慢性病看護学	スーパーバイズ	
研究実績の概要	<p><b>【研究の目的】</b> 脳卒中急性期の患者の家族が行うハイリスク治療における代理意思決定について、熟練看護師が行っている支援を明らかにすることである。</p> <p><b>【研究方法】</b></p> <p>1. 研究デザイン：質的研究</p> <p>2. 研究参加者：集中治療室(ICU)、脳卒中ケアユニット(NCU)などの脳卒中急性期治療が行われる病棟に勤務する、当該病棟の勤務年数が5年以上の熟練看護師5名程度とした。日本看護協会の認定看護師に登録されている救急、集中ケア認定看護師の所属する岡山県内の3施設に依頼を行い、5名の認定看護師から研究協力を得ることができた。</p> <p>3. 調査方法：研究参加者に家族の代理意思決定に立ち会った場面を想起してもらい、「家族の代理意思決定のどのような場面に立ち会ったか」、「どのような援助を行っているか」、「家族に対し気を付けていること」等について、半構成的面接を行った。面接内容は、参加者の了承を得て、ICレコーダーにて録音した。面接は、参加者の業務に差し支えない時間にプライバシーが確保できる個室で実施した。研究参加者の勤務する施設内で実施することができた。 1名40分～50分程度のデータを得ることができた。</p> <p>4. 調査方法：研究参加者に家族の代理意思決定に立ち会った場面を想起してもらい、「家族の代理意思決定のどのような場面に立ち会ったか」、「どのような援助を行っているか」、「家族に対し気を付けていること」等について、半構成的面接を行った。面接内容は、参加者の了承を得て、ICレコーダーにて録音した。面接は、参加者の業務に差し支えない時間にプライバシーが確保できる個室で実施した。研究参加者の勤務する施設内で実施することができた。 1名40分～50分程度のデータを得ることができた。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>5. 得られたインタビューデータについて、現在分析中である。  分析方法は、録音した面接内容から逐語録を作成し、質的内容分析の手法を用いて、文脈単位で分析する。家族への代理意思決定に対する看護師の関わりを文脈単位でコード化する。得られたコードを内容の類似性によりサブカテゴリー、カテゴリーと抽象度を高めていく。さらに、カテゴリーの妥当性、関係性についても検討を行う。</p> <p>面接日時の調整に時間がかかり、本年度中に研究結果を明らかにすることが難しかった。研究参加者からは、経験に基づく実践的な支援に関するデータを得ることができたため、今後研究をすすめ、次年度には研究をまとめる予定である。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>なし</p>